

日清紡ホールディングス株式会社  
「2020年12月期第2四半期決算説明会」 質疑応答要旨

2020年8月6日に開催した機関投資家向け決算説明会における主な質疑応答をカテゴリー別にまとめました。

**無線・通信事業について**

- Q1 下方修正の内訳を教えてください。 A 年間で営業利益を9億円下方修正しているが、マリンで11億円、車関係のICT・メカトロニクス、JRCモビリティで4億円程度ずつ下げている。これらをカバーするのがソリューションとメディカル関係で10億円程度上げている。

**マイクロデバイス事業について**

- Q2 2Qの状況はどうか。 A 1Qと2Qの一番大きな違いは生産ラインの関係。1Qは順調に生産できていたが、2Qに入ってコロナの影響が本格化した。マレーシアのロックダウンにより材料が入らず、タイ工場の稼働が落ちた。市況もにわかに悪くなり生産の操業を抑えた。2Qの売上がそこそこ維持できているのは在庫の寄与があったため。
- Q3 稼働率や在庫の状況はどうか。 A 稼働率は4-6月が最悪だったが、7月が終わってほぼ9割方回復している。在庫は作り切れなかった分もあるので減っているが、6月が底と見ている。総受注も6月を底に、7月は3月の水準くらいまでに戻ってきている。この後の戻り具合が気になるところだが、来年に向けてどう持っていこうか検討している。在庫はだいぶ減っているの、4Qや来年の動きを見据えて準備していく。

**ブレーキ事業について**

- Q4 TMDについて構造改革の成果は出ているか。純正品とアフターマーケット品の状況は。 A 構造改革については順調に進んでいる。品質保証に関連する生産性向上など、計画していたことは2019年末までにはほぼ終えていて、2020年の1Qは計画比で順調に推移した。ただ、COVID-19により3月に欧州はロックダウンとなり、自動車生産が止まったため純正品は影響を受けた。アフターマーケット品も同じように影響を受けている。回復状況は、純正品はまだ低迷しており7月、8月とようやく回復傾向にある。アフターマーケット品の方が戻りが速く、3Qから4Qにかけて100%とはいかなくても、かなりの水準まで戻ると見ている。

**化学品事業について**

- Q5 カルボジライト、燃料電池セパレータの状況はどうか。 A カルボジライトは、市場が止まっている関係もあって大きな盛り上がりはない。ほぼ計画どおりで悪くはないが、市場が急速に立ち上がっているということもない。セパレータは家庭定置用は順調に推移している。車用は受注に対して生産が追いついていないため、生産工程の見直しと改善活動を進めている。ただ、燃料電池車の需要の立ち上がりについては、今のままでは2030年以降で、量産などの大きな話となるとだいぶ先の話だと考えている。

**新型コロナウイルスについて**

- Q6 COVID-19への事業運営上の対応はどうか。 A ビジネスチャンスという点では、モノやサービスを売るチャンスが広がってきている。非接触が常態化してくる中で、必要されるものが通信。目先ではメディカル関係で人工呼吸器用のデバイスや部材、それから非接触用の通信デバイスや通信の仕組みなどの仕込みが始まっている。

**その他**

- Q7 5GやIoT分野でトピックスがあれば教えてください。 A マイクロデバイスの方から5Gの動きが具体化してきている。用途はローカル基地局で、周波数の高い領域になるのでフィルターが必要になる。その引合が多く来ており、今量産スタートの準備をしている。無線・通信では次世代のローカル5G対応装置の実証実験、評価を行っている。また船舶の運航自動化に向けて、日本の企業連合として船用機器メーカーが参画する無人運航船プロジェクトに当社も参加しており、自動運航に寄与できる製品、ソフトウェア開発を進めていきたい。